

学校名	安芸高田市立 来原小学校
校長名	平 弘 力
所在地	安芸高田市 高宮町 原田3375
H P	kuruharasho04@akitakata.jp
学級数	6学級
タイプ	① ・ Ⅱ

1 研究の概要

(1) 研究主題

ことばの力を高め、自分の考えをもち、
適切に表現できる子どもをめざして
～読み取り、深化し、あらかず活動を通して～

(2) 研究のねらい

本校では、国際社会の中で社会人として自立するために必要な人間力を身につけた子どもの育成をめざし、児童の豊かな「ことばの力」を育てることに取り組んでいる。

本校の児童の実態を見ると、筋道を立てて考え、論理的に表現する力、聞いたり読んだりしたことを正確に理解する力、自分の思いや考えを積極的に発表することに課題が見られる。

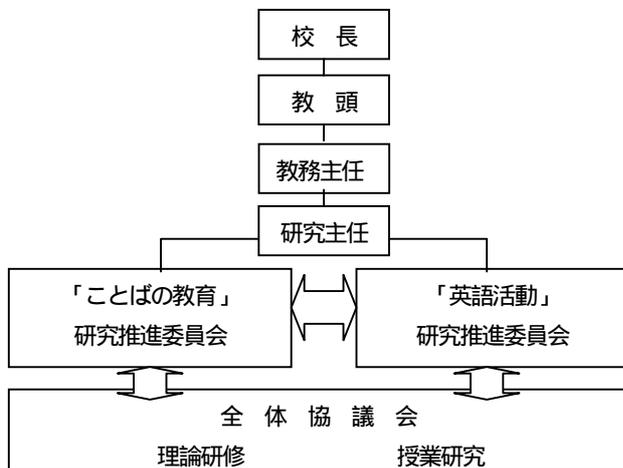
以上のことから、本校では、今年度の研究主題を「ことばの力を高め、自分の考えをもち、適切に表現できる子どもをめざして～読み取り、深化し、あらかず活動を通して～」と設定し、児童の「ことばの力」を育成するために、次のような検証の視点を定め取り組んできた。

研究の検証の視点

自分の考えをもち、適切に表現する力が伸びたか。
思考力や表現力の総和として学力は向上したか。
児童のコミュニケーション活動に対する意欲は向上したか。

(3) 研究組織・体制

全職員が「ことばの教育」・「英語活動」の研究推進委員会のどちらかに属し、研究を深める。一人年間2回以上の研究授業を中心に研究を深める。



2 2年間の取組みの概要

(1) 取組みの内容

児童の「ことばの力」についての実態把握

「ことばの時間」(実施対象 全学年 実施時間 週1時間)の特設・実施と効果的な指導のあり方の研究
各教科等の中で「言語技術」を取り入れ、「自分の考えをもち、適切に表現する力」を高めるための効果的な指導の在り方の研究

コミュニケーション活動への関心・意欲・態度を高めるための「楽しい英語活動」の指導のあり方の研究

「基本習得」「応用力育成」を考慮した「ことばの教育」の年間カリキュラム作成と改善

各教科等での「言語技術」を活用するための「言語技術の活用年間指導計画」の作成と改善

(2) 具体的な取組み

「ことばの時間」における「言語技術」の基本的習得と応用力の育成

本校の「ことばの時間」のとらえ

児童が実社会で自立して生きていくために必要な「話す」「聞く」「読む」「書く」の技術の指導と、思考の訓練を通して、児童の「伝え合う力」や思考力(論理的思考力・分析的思考力・批判的思考力)を育成する。

(「ことばの時間」の実践例) [対象学年 第4・5学年]

楽器をわかりやすく説明しよう

本時のねらい 説明するのに必要な情報を整理し、順序を考えて説明することができる。

読み取り



写真のものについて説明するには、何について言えばいいでしょう？

名前はバイオリンです。

弓で弾いて演奏します。

弦楽器です。

全体の大きさは、約60cmです。

深化

思いついて発言していることを項目ごとに整理しながら板書する。

名前	楽器の種類	大きさ	演奏方法
----	-------	-----	------

あらかず

分かりやすく説明するためには、どんな順序で話しますか？なぜ、そう思いますか？

名前 楽器の種類 大きさや重さ 演奏方法の順で作文を書きましょう。

作文が書けたら、ペアで説明し合しましょう。

「ことばの力」を他教科や学校生活の場面で活用する取組み

各教科等の授業の中で、「ことばの時間」で学習したことを生かして、情報を「読み取り」、「深化し」、「あらわす」活動を仕組む指導の工夫を行うことで、児童はことばの力を高め、自分の考えをもち、適切に表現する子どもが育つであろうと考え取り組んだ。また「ことばの時間」と他教科と関連づけた指導で効果を高めるための「ことばの教育」年間計画、「言語技術」の活用年間指導計画を作成した。(添付資料参照)

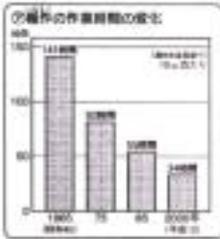
また、発表朝会や校内放送などで言語活動を応用場面とし、取り組んだ。

(各教科等での「言語技術」の活用実践例) [対象学年 第5学年]

社会科での「言語技術」の活用

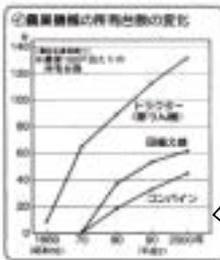
本時のねらい 農業機械の普及が稲作の作業時間の短縮につながったことを理解する。

読み取り



(ア)(イ)のグラフは何を表していますか？
グラフからどんなことがわかりますか？

深化



情報を的確に分析する技術
○グラフの題 (大きい情報)
○グラフの項目
○数量の変化の様子
○数量の比較 (小さい情報)

あらわす

自分の考えを作文に書いてみよう。

なぜ稲作の作業時間は減ったのだろうか？
※二つのグラフを比較しその関係を推論し解釈することによって自分の考えを持たせる。

*パラグラフライティングで自分の考えを記述する。

私は、農業機械が普及することで、稲作の作業時間が減ったと考えます。所有台数が増える年代に作業時間が大きく減っているからです。特にトラクターが急激に増え、田植え機やコンバインが普及した年代に一番大きく作業時間が減っています。これらのことから、私は農業機械の普及が、稲作の作業時間の短縮につながったと考えます。

「楽しい英語活動」で、コミュニケーション活動に対する、関心・意欲・態度を高める取組み

次の五つの点を工夫することによって、児童のコミュニケーション能力を高めたいと考えた。

- コミュニケーション活動への関心・意欲・態度を高める。
- 異文化とふれあう場を設定する。
- 身近な題材、発展性のある題材を教材にする。
- 体を動かし、ゲームなどの活動的な学習を仕組む。
- 音楽やリズムを生かした学習活動を繰り返し行う。

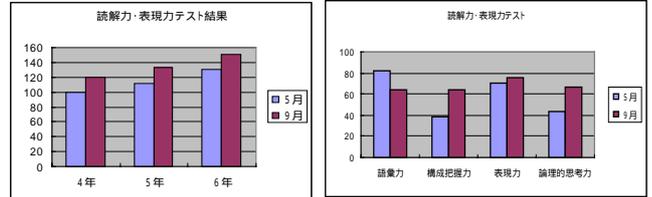
3 研究の成果と課題

(1) 成果 (検証の視点による評価)

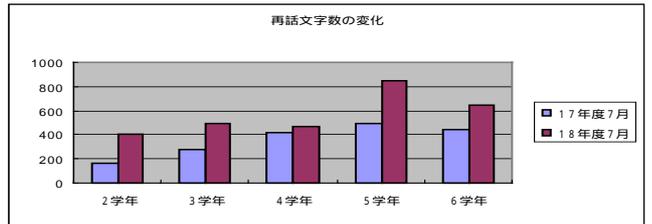
視点① 自分の考えをもち、適切に表現する力が伸びたか。

読解力・表現力テスト(自校作成)において各学年とも約20点の得点の向上が見られた。特に構成を考え書く力の向上が見られた。

再話において書く量が増えた。



4・5・6学年児童対象 5月・9月実施

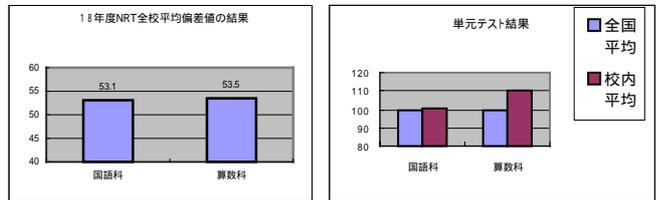


2学年以上児童対象 平成17年7月・平成18年7月実施

視点② 思考力や表現力の総和として学力は向上したか。

平成18年度のNRTでは、全校の平均偏差値が国語科53.1, 算数科53.5であった。

平成18年度1学期の単元末テストでは、全国平均を100としたとき1~10上回った。



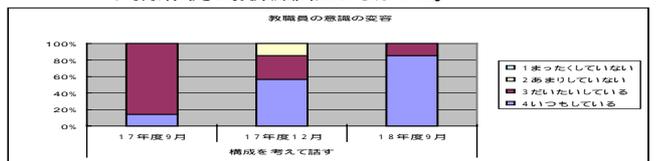
全校児童対象 平成18年4月実施 全校児童対象 平成18年7月実施

視点③ 児童のコミュニケーション活動意欲は向上したか。

児童意識アンケート調査の肯定的回答の推移。

児童アンケート調査項目	H17 5月	H18 9月
「積極的に発表している」	79.1	81.1
「英語で『話す』ことが好き」	81.2	91.8

話し方や授業への話合いの導入など意識の向上が見られ教師自身の授業改善につながった。



(2) 課題

各教科等での「言語技術」を活用した話合い活動を取り入れた授業づくり

語彙力向上のための読書指導等の取組みの充実
実生活の中で、相手の気持ちを受容し、思いやりのあることばを発信するよりよいコミュニケーションづくり